街道沿いの町並景観を作る妻入建物（まちなみけいかん）（つまいりたてもの）

伊勢街道沿いを歩くと、今でも歴史的な建物が点在し、江戸時代の旅の様子をうかがうことができます。東海道との分岐点である日永（ひなが）の追分（おいわけ）から伊勢街道を歩き、明和町内に入いると平入（ひらいり）建物に比べて妻入建物が多くなり、町並の印象が変わってきます。

平入建物、妻入建物は、「三角形の屋根型」テントのような建物をイメージした時に、建物の平側（横の軒下の入口）から入るのか、妻側（三角屋根の下の入口）から入るのかで変わってきます。それぞれの建物が街道に沿ってどのように建ち並んでいたかで印象は大きく変わってきます。

内宮・外宮があった宇治山田（現伊勢市）では、志摩地方にルーツを持つ妻入建物が多い特徴があり、明和町もこの特徴を持つエリアに含まれます。また、明和町の妻入建物では、「にわ」と呼ばれる土間が建物の奥まで通らないものが多いこと、奥行きがあることも特徴です。

伊勢神宮を目指し長い距離を歩いてきた旅人は、祓川（はらいがわ）を渡り町並の景観も変わる中で、いよいよ神宮に近づいてきたことを感じたかもしれません。

皆さんの家も、もしも古い写真や絵図が残っていたら建物がどんな構造だったか、またどんな風に部屋を使っていたか、家族に聞いてみましょう。現在とは違う生活の様子がわかり面白いかもしれませんよ。

令和４年度めいわ文化遺産連続講座
菅原洋一氏「伊勢街道の町家・町並の面白さ」スライドより

さらに詳しい解説は、令和４年度めいわ文化遺産連続講座の菅原洋一氏による「伊勢街道の町家・町並の面白さ」をご覧ください！

キーワード：伊勢街道、町並、建造物、妻入建物